

[研究会報告 5]

「大人の味」という表現の考察¹

Jantima JANTRA

0. はじめに

発話 1

「・・・コーヒーのほろ苦さはな、初恋の味なんだよ・・・。・・・失恋のな。・・・
それが分かるようになってこそ大人なんだよ」

(<http://www.geocities.com/Paris/Loft/5721/SS/others/coffee.htm>)

人間の味覚と人間の経験との間になんらかの関係があることが予想される。本発表は、「大人の味」とはどんな味なのか、それがどのような比喩的な意味を持つのかを考察し、その領域拡張の方向を考えてみる。

第 1 節：「大人の味」の使用例

1. 「離乳食はかなりうす味のうえ、香辛料やお酒など使えないものも多いんです。だからまず離乳食をベースに考えて、そこに大人の味を加えていく方がラクチンと気づいたんです」
2. ハンバーグにもルウにもスパイスをしっかりきかせた大人の味わい。白いご飯にもパンにも、冷えたワインにも合いそう。
3. 「混ぜるだけといっても、工夫しだいで子ども向けにも、グッと大人の味にもなるんです。例えば市販のアイスもチーズとダークチェリーをプラスすれば一気に大人っぽくなるし、甘い納豆を混ぜるとグッとカジュアルになります」
4. チーズクリームでちょっぴり大人の味黄桃カップのパイの実チーズ
5. ミルクティー風味の卵液に浸して焼きます。ほんのりほろ苦くて大人の味のおやつに
6. おにぎりといえば、梅や昆布といった具が定番ですが、ゆずや山椒などの香辛料の香りをさりげなく効かせた大人の味のおにぎりもたまにはいいものです。(<http://www.mynote.co.jp/recipe>)

¹2001年10月発表。

/recipe0003.htm)

7. また国産そば粉とかつお節をぜいたくに使った「だし」、店主こだわりの生そばはまさに大人の味です。(http://www.sakai.tcb.or.jp/tourism/gourmetspot/rikyu.html)
8. 苦いのをがまんしてコーヒーを飲んだ時これこそ大人の味だと思った。(http://www.p-mar.co.jp/poemv10htm)
9. 大人の味・インドカレー (http://www.st.rim.or.jp/orca/hot/curryb.html)
10. お宿に着いたよ。お抹茶いただきちゃった。うーん、大人の味。(http://www.magic-number.co.jp/ttk/noqa/nphoto56.html)
11. 私が初めてゴーヤを食べたのは約5年前の久米島ででした。天気がすぐれず、民宿でゴロゴロしていたら、民食の昼食をお相判になったのでした。だから、お客用の料理ではなく、家庭料理(お惣菜)。もちろん、ゴーヤチャンプルでした。このシンプルな炒め物は定番中の定番でしょう。ほろ苦い大人の味と、思い出に残っています。(http://www.iris.dti.ne.jp/mutsumi/taste/2001/aug01.htm)
12. ポッキーは、私たちが最も好きなお菓子のひとつです。皆さんがご存じのように細かいラッカーにチョコレートがついたお菓子です。世界的にも有名で、様々な国で、見かけることができます。しかし、こんなにたくさんの味の種類があるのはきっと日本だけではないでしょうか?では、その数々の味を紹介します。1) 普通の味:チョコレート、イチゴ、ミルク/2) 大人の味?:ビターチョコレート/3) かわいい味:つぶつぶイチゴ/4) 上品な味:ロイヤルミルクティー/5) 香ばしい味:アーモンド、アーモンドクラッシュ、ココナッツ/6) まろやかな味:マープル(2種類)/7) 男が好きな味:メンズポッキー/8) 変わった味?:チーズ (http://www.edu.city.kyoto.jp/hp/murasaki/document/libraryData/InternationalUnders)
13. 紅茶にちょっぴりお酒を加えるだけで、ほんのり大人の味でおしゃれなティーになります。(http://www.bikkuri.admi.co.jp/osaka/akagi/akagi12.html)
14. 村開発公社は「甘みを抑えた大人の味が好評」と今後の売れ行きに期待している。(http://www.shinmai.co.jp/sityoson/199708/97080609.htm)
15. 香ばしさと辛さの絶妙なコンビネーション、「大人の味」をお楽しみください。(http://www.isweb23.infoseek.co.jp/computer/houryu/jikken/kasi/sbwasap.html)
16. Black 大人の味 V 1 ゲオ販売 [NTT-X Store] 大人がハマるユーモラスでブラックなゲームを集めて収録。(http://store.nttx.co.jp/cowebDetails.asp?ITEMCD=GEO0027)
17. 【楽天フリマオークション】☆☆ BLACK 大人の味 V1 ☆☆ 18 禁ではありません!新品未開封 (http://trading.rakuten/.co.jp.item007/40/a0/70020819/result.html)
18. 援助交際白書大人の味 (http://www.av-japancom/index/title/enjo/207.html)

第2節:「大人の味」はどんな味なのか?—「大人の味」のカテゴリ—

日本人十人を対象に、「あなたにとって、『大人の味』がする食べ物は何なのか」

か」という質問に対する答えをアンケート調査したところ、次のような結果が得られた。

アンケート：日本人に聞いてみた「大人の味」の回答：

- ・ 大人の味・・・苦い味（ゴーヤなど）、ほろ苦い味（ウニ、ビールなど）
- ・ 子供のときに学んだ「大人の味」とは自分が食べてもおいしくないのに、大人がおいしそうに食べたり飲んだりしているもの。刺激の強いもの。コーヒー、わさびのきいたもの、からしなど。
- ・ 子供が食べても美味しいと思わない味、食べられない味。例えば、酒のつまみ。イカの塩辛、サザエの壺焼き、メバルの煮付け等。苦味、辛味が強く又コクがある料理。
- ・ えいひれ（酒の肴なので）、抹茶（本当に渋みを味わうだけなので）
- ・ フナズシ、ウルカ（鮎の内臓の塩辛）、ピーマン、レバー刺
- ・ にがウリ、その他（ビール、コーヒー等。苦いものがほとんど）
- ・ 値段の高い、高級な食べ物もの
- ・ 苦みのあるもの：さんまのはらわた など。洗練された、上品な「味わい深い」味。下品に甘くない・甘さ控えめもの

例文と質問の回答に基づいて、「大人の味」の意味は次のように整理することができる。

A. 飲食物領域内

A1. 実体としての味（味覚を指す「大人の味」）

A2. イメージとしての味（飲食物のイメージを指す「大人の味」）

B. 飲食物領域外（例 16、17、18）

2. 1. 飲食物領域内

2. 1. 1 「実体としての味」の「大人の味」

「大人の味」は飲食物の次のような味を表現する時に使われる。

- i) 苦い、ほろ苦い/ii) 辛い、塩辛い、香辛料の香りが効いて辛い/iii) 渋い/iv) 酸っぱい/v) 甘くない（甘さが控えめにされている味）

ここで「大人の味」の味覚とは、刺激性の強いものが多いこと。さらに、v) の「甘さ控えめの味」も含めれば、「大人の味」のカテゴリーに属する味覚形容詞は全て「あまい」の対照語となっていることに注目したい。

2. 1. 2 「イメージとしての味」の「大人の味」

- 普段なかなか子供に買ってあげない値段の高い食べ物（高級で上質な和菓子など）

●上品な食べもの“例えば、上品なつばあんやそれを使った「きんつば」などは、素材の味が生きていて「味わい深い」、大人の味だと感じます。”

ここでは、飲食物の味そのものではなく、値段から「大人の味」と判断している。この場合の「大人の味」はイメージとしての味である。因みに『反対語対照語辞典』(1989)では「あまい」の対照語として、辛い・渋い・苦い・厳しいが記述されている。

2. 2. 飲食物領域外

飲食物領域外の「大人の味」の意味は、人間の趣味・好みを表す(例 16、17、18)。すなわち、一般的に子供の興味に合うものではなく(ふさわしくないとと言えるだろう)、形容語として「大人の味」が使われ、大人向けのもを表している。例 16・17 の場合は「強烈さのあるゲーム」、例 18 は性的なことを指す例である。

第3節：なぜ「大人の味」と表現するのであろうか？

では、味覚と関係のない「大人」が、なぜ「味」を表すために使用されているのか？

「大人」の意味：①社会的に一人前に成長した人。また、子供に対して、身体的・精神的に一人前に成長した人。⇔子供 ②思慮・分別が十分にある・こと(人)。聞き分けがよくおとなしくしていること。(『学研国語大辞典』より)

辞書とアンケートによって、「大人の味」は子供を視点とする表現であることが分かる。

○飲食物領域内の「大人の味」：i) 子供が食べてもおいしいと思わない味、好まない味/ii) 子供が食べられない味/iii) 子供の頃に食べたが、分からない味/iv) 刺激性のある大人が好む味/v) 上品で、値段が高くて普段子供に買ってあげることがあまりない。

○飲食物領域外の「大人の味」：vi) 子供の趣味に合わない/vii) 子供にふさわしくない。

このように、「味覚」や「趣味」として子供が食べられない、または子供の好まないものを表している。しかし、大人にとっては、苦くても、辛くても、刺激のある物の方こそ「大人の味」であり、おいしく食べられる。このような観点から、生理的・経済的・あるいは社会的な理由から「大人の味」を用いたのではないかと考えられる。

⇒生理的な理由：河野(1977: 68-95)

甘味：人間の動きに必要なエネルギー源のありかを示すものであり、子どもの成長に必要とされるもの。生理的に嗜好する味であるため、子どものときから自然に知っている味。/苦味：子どもにとって新しい味であり、後天的に覚える味。年齢が高くなるにしたがってより苦いものが受け入れられるようになる。

金澤(1998)：「甘味」と「塩味」に比べて、「酸味」「苦味」は子供には苦手な味。酸っ

ばい；(少々極端だが) 腐敗したものの味。苦い；毒の味で、共に体に入れてはいけなもの、吐き出さなくてはならないもの。それが大人になるにつれて、酸味や苦味を他の味と組み合わせ、複雑な味にして楽しんでいると思われる。(味覚は習慣でも変わるのである)

⇒経済的な理由：子供と比べて経済力を持っている人は「大人」

⇒社会的な理由：思慮・分別・年齢から「大人」であるかどうか判断する。

第4節「大人の経験」と「大人の味」；逆拡張方向現象

本節では、人間の感覚（味覚）と経験との領域拡張の方向を考察する。

いずみ：「抹茶って幼いときはおいしいと思わなかったなあ」

のえる：「うん。小さい時はわからない味だよ」

いずみ：「例えば、わさびや一味（七味）唐辛子、カレーの辛さとかコーヒーとか」

のえる：「私はシナモンもダメだった。今じゃあシナモンなしのアップルパイなんて考えられない（笑）」

いずみ：「大人の味っすね」

のえる：「大人の味だねえ」(<http://noahs-ark.hoops.ne.jp/dotubo8.html>)

この会話では、「大人の味」は具体的な「味覚」を指す表現でありながら、さらに評価の意味合いも持っていると考えられる。これは他の味覚形容詞と異なり、「大人の味」の特色と言える。では、なぜ「大人の味」が評価の意味合いをもっているのだろうか？これは「大人の味」という言葉に何かのイメージが含まれているからだと考えられる。

●味覚領域と経験領域の拡張関係とその方向：

慣用句の例：「人生／世間はあまくない」、「渋い芸」、「苦い思い出・経験」、「ほろ苦い人生」、「辛酸をなめる」、「酸いも甘いもかみ分ける」

このように、苦いや酸っぱいなど「大人の味」のカテゴリーに属する味覚形容詞の拡張された意味としての使用が見られる。すなわち味覚領域で飲食物の味を表すこれらの形容詞は経験の領域に拡張され、人間の人情を表現するために使用されている。これらの味覚形容詞はどのような意味拡張方向を持っているのであろうか。Backhouse(1994)によれば、意味の拡張方向は通常、基本的な領域である味覚の領域からより抽象的な領域へ拡張される方向が多く見られるという。しかし、「大人の味」は他の味覚形容詞と異なり、経験の領域から味覚の領域への「逆向きの拡張方向」と考えられる。まず、「味」「経験」そして「大人」の関連を見てみよう。

「・・・コーヒーのほろ苦さはな、初恋の味なんだよ・・・。・・・失恋のな。・・・それが分かるようになってこそ大人なんだよ」

(<http://www.geocities.com/Paris/Loft/5721/SS/others/coffee.htm>)

この発話における「コーヒーのほろ苦さの味」、「初恋の味」そして、「大人」はどのように関連しているのであろうか。まず、「味」の記述的な意味を見てみよう。

「味」の意味: ①飲食物などに舌が触れて起こる感じ。/②うまみ。ア. 面白さ。特に、物事の趣。イ. うまいことがあっていい気になり、またそうなることを期待している。「～をしめる」/③体験を通して知った感じ。/④ (思いがけず) 気がきいて手ぎわのよさ。快いこと。「～な」(『岩波国語辞典』(2000) より)。

「コーヒーのほろ苦さ」の場合、「ほろ苦い」という飲食物の味を指している。対して「初恋の味」の場合、①の“飲食物に舌が触れて起こる感じ”としてではなく、拡張された意味としての③“体験を通して知った感じ”の意味と考えられる。ここでメタファーの働きが見られ、比喩的な記号プロセスがあると思われる (cf. 山梨: 1988)。それでは、この例にどのような比喩的な記号プロセスがあるのだろうか。まず、上記の発話を文字通りに解釈すれば、次のように記述できるだろう。

●コーヒーのほろ苦さは初恋 (失恋) の味である。/●初恋 (失恋) の味が分かるようになった人は大人である。/●コーヒーのほろ苦さが分かるようになった人は大人である。

ここでは、まず味覚を形容する「ほろにがい」はメタファーによって意味が拡張され、人間の経験、すなわち「恋愛」と共起し人間の心情を表すことばとして使われていると考えられる。つまり、この場合、「コーヒーの味」は「恋愛の経験した感じ」にたとえられ、この発話は次のように解釈できると考えられる。

●初恋 (失恋) の味は、コーヒーの味のように、ほろ苦い。/●恋愛の経験がある人は、大人である。/●コーヒーの味が分かる人は、初恋 (失恋) の味が分かる人のように、大人である。

ここでは、「様々な人生経験をできて大人になった」という概念が持たされ、より一般的な「味覚から経験へ」という方向とは逆に「経験から味覚へ」という「逆拡張方向」現象が観察される。下記の2つの文を比べてみればより理解し易いであろう。

A) 初恋 (失恋) の味は、コーヒーの味のようにほろ苦い。

B) コーヒーの味は、初恋（失恋）のようにほろ苦くて大人の味がする。

A) の場合は、Backhouse(1994) で示されているように、味覚の領域にある「ほろにがい」は人間の心情を表すために、より抽象的な領域の経験（恋愛）領域に拡張される現象が見られる。しかし、B) の場合は逆の拡張方向を持っている。すなわち、人間の「味覚」を表すために、経験領域における感覚の主体である「大人」の概念が使用されている。では、この場合の「大人」の概念というのはどんな概念であろうか。これは「よい経験も辛い経験も色々な経験を積んだ成長した人」という概念が大きく働いているのではないか。先に挙げた「酸いも甘いもかみ分ける」の例を見てみれば分かる。『実用ことわざ慣用句辞典』によれば、この慣用句は「豊かな人生経験を積んで、世間の表裏や人情の機微に通じている」という意味である。この意味にしたがって、「いい経験も辛い経験も含めて、豊富な人生経験をしてきた人は、成長した大人の味だ」という概念が持たされるのではないか。このような「大人」のプラス的な概念から考えれば、なぜ「大人の味」は評価的な意味合いを持っているのかが分かる。

第5節：まとめと今後の課題

「大人の味」と他の味覚を表すことばとの類似点：

他の味覚形容詞と同様に「大人の味」は飲食物の具体的な実体としての味覚を指すために使用されているという点。

「大人の味」と他の味覚を表すことばとの相違点：

1) 本来、味覚のカテゴリーに属さない「大人」が「味」と共起することで、味覚を表すことばとして使われている点。河野（1977）、金澤（1998）のように、「人間は子供から大人になるにつれ、様々な飲食物を口にし、様々な味を味わう」という生理的な説明によって、「大人」が「味」と共起し、「味覚」にカテゴリー化されると考える。

2) 「大人の味」は他の味覚形容詞と異なり、単に実体としての味覚を指しているだけでなく、イメージ化された味覚表現でもある。「大人」の概念が仲介されることにより、「抽象的な他の領域」から「味覚の領域」への「逆拡張」が行なわれるからである。

今後の課題：

更に様々なメディアを調査し、味覚表現を考察する必要がある。その際、言語学的な分析だけでなく、さらに文化の面から考える必要がある。

参考文献

- Backhouse, A.E. (1994) *The lexical field of taste: A semantic study of Japanese taste terms*. Cambridge: Cambridge University Press.
- 石尾直道 (1983) 「味覚表現語の分析」『言語生活』320号
- 内村直也 (1980) 『五感の言語学』PHP 研究所
- 金澤寛明 (1998) 「味の話」『健康文化』22号 インターネット版
- 北原保雄・東郷吉男編 (1989) 『反対語対照語辞典』東京堂出版
- 金田一京助他編 (1997) 『新明解国語辞典 (第五版)』三省堂
- 金田一春彦・池田弥三郎編 (1980) 『学研国語大辞典 (机上版)』学習研究社
- 河野友美 (1977) 『味と文化』講談社
- 三省堂編集所編 (1992) 『実用ことわざ慣用語辞典 (第十三版)』三省堂
- 宍戸通康他 (1996) 『表現と理解のことば学』ミネルヴァ書房
- 鈴木孝夫 (1973) 『ことばと文化』岩波書店
- 西尾実他編 (2000) 『岩波国語辞典 (第6版)』岩波書店
- 山口仲美 (2000) 「味と味覚を表す語彙と表現」『日本語学』No.6、Vol.19
- 山梨正明 (1988) 『比喩と理解』東京大学出版会

質疑応答 (敬称略)

松尾 (コメンテーター) : この発表がおもしろいと思う点は、第一に、「味覚」と「人生経験」という二つの概念領域の関係が、従来考えられていたような一方的な拡張関係ではなく、双方向的な関係であるということを示した点。第二に、その結果として、生理的な知覚によって決定されている度合いが極めて大きいように思われる「味覚」という概念領域が、言語的、命題的な意味の侵蝕を受けていることを示唆していること。これは、味わうということは単なる知覚ではなく、「意味として味わう」という側面もあることを含意する。「大人の味」の特徴をより明確にあぶり出すために、他の味覚表現との比較が必要である。例えば「澄んだ」「まるい」という共感覚の味覚表現は、やはり「イメージ」の拡張によるものと言えるように思うが、「大人の味」が「イメージ化された表現である」と言うときの「イメージ」はそれとは異質なものであろう。「大人の味」における「イメージ」とは何なのか。また、「大人の味」を「評価の意味合い」と

「イメージ化」という二点によって特徴づけているが、それは例えば「しつこい」「素朴な」「上品な」といった味覚形容についても言えるように思われる。「大人の味」はそれらとさらに違う特徴を持っているのか。「おふくろの味」のような例はさらに「大人の味」に近いように思われるが、違いは何か。「大人の味」という表現がどのような効果を持つのか、という方向からも考えてみてはどうか。「大人の味」が含意するのは、それを用いる者、つまり「大人の味」を理解し、評価する者は一定の優れた味覚を備えている、ということだけであるはずだか、彼が何かそれ以上の美点を備えているかのような印象を、この表現は与えるように思う。

三谷： 「大人の味」という表現は、最近マスコミや広告でよく見られるが、それ以外に、文芸作品や日常会話では例が見られるか。

Jantra： やはり雑誌が多い。会話でも使われる。文芸作品はまだ見ていない。

三谷： 「大人の味」は、曖昧な表現でお茶を濁す時にも使われる。

権和： いつごろから使われ始めたのか。明治時代にも使われたのなら、文学作品に見られるのではないか。使われるようになった背景には、食生活の変化もあるのかもしれない。タイでは同じように使われないということだが、それは辛さや苦さを肯定的に評価しないということか。

Jantra： 「これは大人が食べるもの」「子供は食べない」という評価をする。ことわざでは「苦いものは薬みたいなもの」というものがある。

向山： 感覚的な味覚表現はすでにイメージとして定着しているのではないか。慣用ではないか。経験よりもメタファーが大きいのではないか。

信田： 「子供の味」はメタファー化されないのか。なぜ「大人の味」だけメタファー化されるのか。

Jantra： まず、「子供の味」は用例が少ない。

信田： 直観的には、「子供の味」はメタファー化されない。実際、メタファー化されないなら、なぜ、拡張が一方なのか考えてみてはどうか。「大人の味」以外に、キャッチフレーズのような味覚表現はあるか。

Jantra： 「おふくろの味」「京都の味」がある。

内藤： 甘口のカレーに蜂蜜を加えてさらに甘くしたところ、「子供の食べるカレーだ」と言われたことがある。また、かつてケーキ屋で、リキュールを多く使用しているケーキを「大人の味」と説明されたことがある。「大人の味」が甘くない、または子供の好まないものを意味するのに対して、そのような表現は確かにないが、あえて言うなれば

「子供の味」は甘い味を意味すると思われる。

森岡: 「大人の味」とはどんな味か、というアンケートをとれば、「苦い」「渋い」という答えが返ってきてしまうだろう。「大人」の特性が重要な役割を果たしているのではないか。「大人」の特徴は、限定がかかるということであろう。年齢的限定もある。子供には食べたことのないものがあり、子供にはその味がわからない。「子供の味」がないのは、限定がかからないからであろう。大人は子供時代を知っているから。「大人の味」がお茶を濁す時に使われるというのは、「大人の」味、とすることで、想像されるターゲットが「イメージ」とんでしまうということではないか。

Armstrong: うどんの味は東西で違う。「大人の味」もやはり各地方で違いがあるという可能性があるのではないか。

森岡: 英語では同じ表現があるか。

Armstrong: “adult taste”とは言わない。言っても通じない。“rich taste”とは言わない。子供の時によく「これは rich taste で、子供の食べるものではない」などと言われた。

Hansen: “sophisticated”という形容もなされる。グルメな食べ物味の味というのは acquired taste で、それは（大人／子供の違いではなく）社会階級と結びついている。

李: 回答者の数が 10 人では少ない。もっと多く、しかも言語学以外の人に回答してもらおうと良い。「大人の味」に該当する味覚表現の順番で「苦い」が最初に挙げられているが、「大人の味」が「苦い」を指すことは実際の用例ではそんなにない。

それから、「逆向き拡張」という説明は、妥当だろうか。つまり、「コーヒーのほろ苦さは」という用例が根拠のようだが、一般化することができるかどうか。

メタファーによって何が説明できるのかを、根本的に考える必要がある。構造意味論の手法を用いて議論を緻密に詰める方法もある。味覚の形容詞の体系の中での、「大人の味」の価値的な位置づけについて考察する際、言語間比較を行う場合には、扱う表現にほんとうに近いものが他言語の中になのか、注意深く比較する必要がある。

三谷: 「子供の味」とは言わないのは、「大人」が marked だからである。「大人の味」がまず有標な表現として現れ、定着し、その後で「子供の味」が成立する、という順序なのであろう。syntagme と paradigme の双方から捉えるべきである。前者については、「大人の味」の「の」は経験者と格である。後者については、「大人の」がつく名詞は他にどのようなものが考えられるか。

Jantra: これからの課題とします。